

平成29年度第2回三重県総合教育会議 議事録（概要）

- 1 日 時 平成29年6月22日（木）13:00～14:30
- 2 場 所 アストプラザ 4階 会議室1
- 3 出席者 知事、教育長、教育委員4名
- 4 議 題 ・教育・人づくり施策の振り返りについて
・豊かな心の育成について
- 5 主な意見 ○：教育長、教育委員、●：知事

<教育・人づくり施策の振り返りについて>

- 全体的に多岐にわたる中で工夫を凝らした取組がされている。
子どもの貧困と学力格差を突破するカギは幼児教育にあると言われるように、幼児教育の重要性が非常に注目されているので、幼小連携の取組もぜひ力を入れてほしい。
また、教育・人づくり施策の成果を検証する仕組みが必要である。
- 将来親になるための学びの機会づくりの取組も行っているが、先日四日市市内で事件があったように、なかなか浸透していない。命の大切さを伝える取組に本当に必要とする人たちが関わってもらえる機会が必要である。
- 自分の子育てを通じて、さまざまな価値観や環境に触れることの大切さに気づくことが多いが、その中で特に感じるのは、父親の存在の大切さである。子どもたちの「生き抜いていく力」を養うためには、父親がより子育てに関わっていけるような環境づくりや働き方の改革が必要である。
- 県や市町がやり続けるべきことと、地域に任せることの仕分けがそろそろ必要である。市町ではまちづくり協議会が設立され、コミュニティ・スクールの支援や、見守り活動、学習支援活動の担い手として活躍しているので、地域の団体へ任せる機会を作っても良いのではないか。
- 幼小の連携については、非常に大切なことだと考えており、具体的な内容をこれから研究していきたい。
成果の検証については、その検討の方法など整理できていないので、今後仕事の仕方を意識しながらやっていきたい。
どの事業でも、本当に必要とする人たちになかなか伝わらないことはこれまでも課題として感じてきたので、発信のやり方も含め考えていきたい。
父親の関わり方については、毎日少しでも家庭の中で関わることを続けると素晴らしい教育になるはずである。

- 幼保小の連携については、ガイドラインを今年度作る予定にしている。
将来の親になるための学びについて、小中高を通じて取組をしているのは三重県だけと思うが、まだ全ての学校の取組とはなっていないので、これを広げていきたい。
父親の関わり方は、家族の中でしっかり話し合ってもらうことが重要である。父親が育児参画したくてもかなわないということがないように、働き方を見直したり、気運醸成をしたりすることが行政の仕事である。
教育委員会以外の他部局の取組、特に子ども・家庭局の取組について、教育委員の皆さんに知ってもらいアドバイスをもらう機会があると良い。

<豊かな心の育成について>

- 命を大切にする教育は、道徳だけでなく全ての教育活動において取り組むべきである。命を大切にする教育を進めるにあたっては、命の大切さだけではなく、死の意味についても考える必要がある。子どもたちの自己肯定感が少しずつ向上している一方で、自己肯定感が低い子どもが、小学生で4分の1、中学生で3分の1程度存在することを見落としてはならない。自己肯定感とは自然体験など多くの事柄と相関があることから、特定の取組だけでなく総合的な取組が必要である。
- 自己肯定感と相関のある自然体験については、家庭教育に頼らず学校の授業の中に取り入れることが必要ではないか。また体験学習などについては地域の人が活躍する機会を増やしていくことが大切である。「考え、議論する道徳」への転換は重要である。当事者から話を聴き、感じたことを話し合うことで豊かな心につながる。
- 子どもたちの変化には様々な背景があるため、医療的な見地も大切である。道徳の授業を参観する機会があったが、自己肯定感の低い子どもがどのように受け止めているのかが気になった。道徳は一つの答えを導くものではないため、その指導は難しい面がある。外部専門家の力を借りることも必要ではないか。
- 社会性を育てることが自己肯定感を高めることにつながる。問題解決的な学習、体験的な学習が効果的だと思うが、その一方でやらされ感につながるように工夫することが重要である。また、保護者が子どもの課題を認識していないこともあることから、保護者がカウンセリングを受けることも必要である。
- 道徳教育の研修を受けた教員がどう変わったか、結果として子どもに道徳性が養われているか、という実態把握を行うなど、研修の実効性を確認する

必要がある。自分の読んだ本などを題材に子どもと話し合うことによって子どもの心にせまることが大切である。

以上